



Welcome and let's get going!

Graduate School of
Decision Science and Technology,
Tokyo Institute of Technology

Message	メッセージ
Organization	組織図
Dialogue	飯島淳一教授×谷口尚子准教授
Student interviews	学生インタビュー
Graduate school life	大学院生活
Message from our experienced	卒業生からのメッセージ
For our age of globalization	留学支援
Access	アクセス

東京工業大学
大学院社会理工学研究科

Welcom and let's get go

東京工業大学・大学院社会理工学研究科は
あなたを待っています。
人間と科学技術が調和した社会を目指す人、
募集しています。

Contents

Message	メッセージ …… 2
Organization	組織図 …… 4
Dialogue	飯島淳一教授×谷口尚子准教授 …… 6
Student interviews	学生インタビュー …… 8
Graduate school life	大学院生活 …… 10
Message from our experienced	卒業生からのメッセージ
For our age of globalization	留学支援 …… 14
Access	アクセス …… 15

me

coming!

今まで大学で学んだことを
もっと深く
研究してみたい

自分が社会や現代の諸問題に対して
抱えている疑問を
もっと学問の世界で追求し、
自分なりの答えを探してみたい

学部時代は
幅広い知識を身につけてきたけれど、
大学院へ進学して、
自分の専門分野を確立したい

得意の理数系の分野を活かしながら、
社会のことを分析してみたい

科学技術と
人間社会の未来について、
多角的に考えてみたい

Message

このような問題意識を持っている学生の方々へ

東京工業大学・大学院社会理工学研究科は、
みなさんの思いを一緒に考えていく場を用意しています。

「人とテクノロジーと社会をつなぐ」、
それが社会理工学研究科の探究している世界です。

社会理工学研究科の 4つアプローチ

大学院社会理工学研究科は4つの専攻で構成されています。それぞれの専攻は独自のアプローチによって、人間とテクノロジー、そして社会の問題に取り組む研究を行っています。それぞれの専攻では、最新の研究に取り組んでいる教授陣が研究室を運営し、教育・研究活動を行っています。

人間行動システム専攻では、人間性を加味した新しい科学技術の発展に寄与するため、人間の知性、認識、社会性、コミュニケーション、生体や行動などの特性を解明し、人間の能力開発の基礎となる理論体系を構築します。

また、その理論体系にもとづき、人間とさまざまなメディアや機器との効果を解明し、人間にやさしく、人間の能力を引き出しかつ拡大する新しいメディアや、機器の開発に貢献します。

本専攻は、心理学、教育学、生理学、言語理論、認知科学、人間科学、教育工学、生体工学、手法開発、システム開発など、人文・社会科学から理工学までの幅広い学問分野をベースに新しい学際領域を形成するものであり、理工系方法論の厳密さと人文・社会科学の問題解決のための豊かな発想を融合し、幅広い視野と実践的問題解決能力を備えた人材を育成することをめざしています。

人間行動システム専攻

Department of Human System Science

人間の持つ豊かな発想力と科学的分析力の統合を目指して

ビジネスにおいては、技術と人間の間に存在する様々なあつれきの解消を図りつつ、多様な価値観を調和させた問題の発見と解決が求められます。

そこで、経営（マネジメント）活動における価値創造プロセスの諸問題に果敢に挑戦し、何らかの方法論・手段を見出します。これを持続的に実現していく Problem Challenger として、

- ・問題の構造化・モデル化を中心とする概念的な能力
- ・事実を注意深く観察しデータを採取し解析する数理的分析能力
- ・センスのよい問題の発見・定式化に基づく創造的・統合的な問題解決能力

- ・論理的思考力と柔軟な発想力
- ・問題を媒介・伝達するコミュニケーション能力

を備えた、従来の理系・文系の枠を超えた「理魂文才」のエンジニアの育成を目指しています。

幅広い視野の下での工学的・科学的アプローチを強みとし、卒業後の進路も非常に多岐にわたっています。

経営工学専攻

Department of Industrial Engineering and Management

本専攻では、経営工学を「技術を生かす技術（テクノロジー・オン・テクノロジー）」と位置づけています

大学院

理工学研究科

生命理工学研究科

総合理工学研究科

情報理工学研究科

社会理工学研究科

イノベーションマネジメント研究科

価値システム専攻

Department of Value and Decision Science

ビジョンを語る言語と現実のデータを操る、
卓越したリーダーを育てる

VALDES(Department of Value & Decision Science)は、人びとの合意をうみだすための哲学や思想(自然言語)と、課題を表現する数学(形式言語)との両方を身にそなえ、実践のなかで最善の意思決定を行なうトップリーダーを育成するため、1996年に創設されました。

グローバル世界も、日本社会も、閉塞感にとらわれています。これまでの制度や枠組みが行き詰まり、停滞を打開するビジョンがない。また、その閉塞の根源をえぐり出す、分析が十分でない。政府も企業もどんな組織も、有効な意思決定ができない麻痺状態に陥っています。

こうしたなかリーダーとして適切に行動するには、この課題を解決するのは自分だという当事者性が必要です。そして、細かな専門や権限の垣根を乗り越えて、拡がる問題の全体を掴む分野横断的な知性が必要です。

- VALDESは、そうしたリーダーに必要な能力と覚悟の訓練を行ないます。

社会学専攻

Department of Social Engineering

社会学は常に先の時代を見つめ、感じ取り
その問題の解決、新しい時代の豊かな
可能性を追求してきました

社会学とは社会の問題を解決するために「モノ」を創り、それを活用し社会に役立てる学問です。ここでいう「モノ」とは、例えば法律、数理モデル、公共空間、あるいはアートなど、多種多様なものを含みます。

温暖化が社会経済に与える影響を分析するモデルの開発や、公共事業の有用性を判断するための実用的な費用対効果のモデルの開発、また茨城県古河総合公園のデザインでは、UNESCOのメリナ・メルクーリ国際賞を2003年に受賞しました。

このように多くの実績を持ち、その構想力と緻密な解析力によって世界の中心的役割を果たしてきました。

大学院修士課程では、2006年度から社会ニーズに応え、新たに制度設計理論(経済学)、公共システム、時空間デザインのプログラムを設立しています。堅固な人文社会科学の理論の追求とともに、実践知と理論知の融合をはかり豊かな人材を育成しています。

今回、東工大出身の飯島先生と2010年から価値システム専攻に着任された谷口先生に、社会理工学研究科の魅力や期待する学生像についてお話を伺いました。理系と文系の枠組みを超えて、新しい人材を育て、社会へ送り出す場としての役割や、日々自分自身を変えていく学生さんたちのいきいきとした雰囲気が伝わってきました。これから本学で学んでいこうとする方々に対する先生方の期待もふくらんでいるようでした。

「チャンスを活かす意志のある人に来て欲しいです」

社会理工学研究科長
経営工学専攻

飯島淳一 教授

「東工大はある意味、日本社会の予習をする場になると思います」

価値システム専攻

谷口尚子 准教授

自由な雰囲気の社会理工

飯島 本日はよろしくお願ひします。谷口先生は東工大にいらっしやって、どんな印象をもたれましたか？

谷口 私の出身は慶応大学なんですが、文学部の社会学で社会心理学をやって、大学院は法学研究科で政治心理学を研究してきました。大衆心理やマーケティングを政治に応用していくもので文系なんですけど、手法は統計分析なので理系の方法論を使っていて、東工大の研究者の方と共同研究をする機会がありました。文系の大学だとヒエラルキーがかなり強いイメージですが、東工大は研究の自由さを感じますね。

飯島 特に社会理工学研究科は、研究テーマを自分で決められるので、自由な雰囲気はありますね。あと、私が今感じているキーワードはグローバリゼーションです。海外の大学からのオファーがとて増えている、提携校も増えています。私のゼミは、この数年英語でやっています。はじめのうちは学生は準備してきたものを読み上げていましたが、最近は慣れてきてディスカッションも活発に行われています。留学生との交流も刺激になっていますね。

谷口 東工大内部から進学した方と外部から入ってきた人はそれぞれの個性があります。社会の中でリーダーとしての立場になっていくと、自分の専門領域の中だけで仕事をすることは不可能だと思います。文系・理系の両方の手の内を知ってなければ勝負に勝つことはできない。

だからこそ、両方の考え方を学べる社会理工学研究科のような場所が重要になってくると思います。

課題解決型+抽象化思考

飯島 学生の質についてはどんなふうに感じていますか？

谷口 東工大は、授業中私語が少なく静かで驚きました。今は、どうしたら学生たちが燃えてくれるか模索中です。

飯島 それは、計算させると燃えますよ。



谷口 確かにそうですね。かなり難題を出してもやってくれます。

飯島 解くのが好きだと思います。どちらかというとアカデミック志向の問題を発見するよりも、課題解決型という傾向はあると思います。私はさらに抽象化思考を学んでもらいたいと考えています。一度問題を抽象化、形式化して、解決の方法を探っていく。社会に出てくることは、まったく同じ事象は起こらないのです。でもその背後や根底にあるものの共通性を見つけ出していく必要がある。

谷口 理系の「解く力」を持っている学生たちが、そういう「問題発見の力」をつけたら鬼に金棒ですね。

飯島 谷口先生は、ご自身を含めて、女性が理系の分野で学ぶことの強みとは何だと思われませんか？

谷口 私自身、東工大に着任した時に感じたのは、優秀な男子校に飛び込んだというイメージでした。みなさん優秀な方々でかなり緊張しました。学生さんたちも、本当に良い仕事をしたいと思って、企業に就職したら同じ状況になると思います。まだまだビジネスの世界は男性社会なので、女子学生にとって東工大はある意味、日本社会の予習をする場になると思います。

男女共同参画社会の魅力

飯島 フィンランドは、男女共同参画社会ということを実現している国ですが、社会理工が連携しているユバスキュラ大学の学長は、アイノ・サリネンさんという魅力的な方です。彼女はフィンランドで初めて女性として大学の学長になった方なのです。私は「男女共同参画を実現して、フィンランドの社会はどう変化しましたか」という質問をしたことがあるのです。

谷口 どんなお答えが返ってきたのでしょうか？

飯島 彼女は「トレラントな社会になった」とおっしゃいました。トレラントというのは「寛容」ということです。これは、とても重要な言葉だと思いましたね。

谷口 女性が少数派だから大事にされる

ということではなく、男性中心だった社会の中に女性が増えていくことによって、寛容さが引き出されていくというのは素敵ですね。私は、女性はメディアータ的な役割ができると感じています。異なる分野をつなげたり、調整する能力に長けていると思うのです。

飯島 メディアータとは、境界を結びつける接点を意味するバウンダリー・オブジェクトという概念に近いような気がしますね。

谷口 大学院という場は社会の入り口だと思うので、東工大で男性社会の競争の厳しさもちゃんと感じてもらいながら、やるべきことをやってもらいたいですね。

社会理工学研究科が求める人材像

飯島 学生は目覚めるとおもしろいですよね。英語があまりできない学生をサマースクールに行き来し送り出したら、随分楽しかったようで、帰国直後に冬休みのコースはないのか、と催促されました。さなぎから蝶になる感じでしょうか。社会理工学研究科は、積極的に国際連携を行っているのです、そういうチャンスがたくさんあります。

谷口 自分を変えるきっかけになりますね。

飯島 でも一番大切なのは、自分で変わることです。ある学生は、大学院に入った時に「僕変わります」と宣言して、学生の幹事をやったり、ものすごく積極的に動くようになって、研究の質も高まったので、驚いたことがあります。

谷口 自分の中で考えるところがあったのでしょうか。

飯島 今、清華大との交換留学もあります。フランスへの留学を勧めた学生が、

これからは中国と仕事をしたいほうがいいと思うと言って、清華大へ行きました。ダブル・ディグリー（双方の大学で学位が取れる）が取れるので、毎週日本にレポートを送ってきています。

谷口 チャンスに乗っていく人は伸びます。そういう学生に来て欲しいですね。

飯島 確かに、この大学ではチャンスはたくさん与えられるけど、それは自分で掴むものだと思います。やはりチャンスを活かす意志のある人に来て欲しいです。

谷口 この環境を活かせる人にとっては、鍛えられる場だと思います。

さまざまな可能性のある大学院

飯島 夏に、「災害ソリューション実践」というプロジェクト型の授業をおこなったのですが、かなり手ごたえを感じました。東日本大震災の被災地に行って、現地の方々と短編映画を製作するというプロジェクトだったのですが、東工大の学生はこんなにすごいことができるんだ、と思いましたね。

谷口 それはどういうことですか？

飯島 ふだんは、ちょっとぼーっとしてみたいで、あまりアクティブな感じがしないのですが、ものすごくいきいきと



していました。やはり、自分たちがやっていることが現地で受け入れられていることを感じたんじゃないかなと思います。ものすごく素晴らしい作品が出来たのです。全学で実施したプロジェクトですが、終了後学生たちがウェブサイトをつくって、高い評価をいただいています。

谷口 私も今、別のプロジェクトで東北大と共同で調査をさせていただいています。こういう実践的な活動も重要ですね。

飯島 今回、「災害リスクソリューション実践」のようなプロジェクト型の授業を実施できたことは意義があったと思います。ボランティアなどは、やる人はやるけれど、出会いや機会がない人はやらないことが多いと思います。授業の一環として取り組めたことで、自分達がやっている研究分野の観点で何ができるか、ということを考えることができたと思います。

谷口 東工大は、こういった社会や企業と連携するプロジェクトも多いですね。

飯島 ひとつの特徴として、修士はもちろん博士課程に進んでも企業に就職する選択肢があるという点は強みだと思います。文系だと大学院に進学したら研究者になるしかない、でもポストがないということが言われますが、東工大の大学院生にはいろいろな進路が開かれていると思います。

谷口 東工大における社会理工学研究科は社会への窓口のような役割かもしれません。社会と技術のインターフェースを担っていく優秀な人材を送り出していかねばなりませんね。

飯島 我々教員は学生に対して、さまざまな可能性や選択肢を提供していきたいと思っています。今日はありがとうございました。

Naoko Taniguchi

博士（法学）／慶應義塾大学法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学（1998）
専門分野は、政治現象、特に政治意識や政治行動の分析。インターネット調査から大規模国際調査（「Asian Barometer」「World Value Survey」など）まで、幅広く調査を行うことをベースとしながら、データ分析や実験による検証などを併走させ、厚味のある実証研究を行なうことを目指しています。



Junichi Iijima

工学博士／東京工業大学・大学院総合理工学研究科システム科学博士単位取得満期退学（1982）
専門分野は、情報システム学とシステム論。特に、ビジネスアーキテクチャと統合した情報システム開発方法論、ビジネスプロセスのモデル化、ビジネスにおける有効なIT投資のあり方、などに関心があります。
人生哲学は、「A rolling stone gathers no moss.」です。

人間行動システム専攻

仲谷佳恵

私は、津田塾の情報科学科で情報科学を学んできました。中学からずっと女子校だったので、このまま大学院に残ったら、環境に慣れてしまうと思って、外の大学院に進学しようと決めていました。

これは、偶然の出会いみたいなものですが、3年生の秋に東工大の文化祭である工大祭に見学に来て、正門から入ってすぐの所でパンフレットをもらったのです。ウェブのアプリケーションをつくってみました、という内容で、教育系のアプリに興味があったので見に行ったのです。それが、今在籍している室田研究室でした。

卒論では英語教育のことをやったので、情報科学と教育のことを融合させる研究ができる現在の研究室の環境は自分にすごく合っていると思います。受験をする前に、ゼミ見学をしたり、先生に自分がやりたいことをメールで伝えました。これは少し勇気があることですが、大学院で研究をする場合、重要なことだと思います。基本的に進学希望者は、ゼミを見学したほうがお互いのために良いと思います。社会理工学研



“何かひとつ、
つきつめたいものがある人
にとっては充実した環境”

Kae Nakaya

究科は、東工大の中でも外部からの学生を受け入れることについてオープンだと思います。

東工大に入って良かったことは、男性が多い環境に慣れたことかもしれないですね。これはお互いさまですけど、最初はお互い挨拶もどこかぎこちなかったんですよ。自分から飲み会などの企画をして、今は仲良

くやっています。

実際に研究をしている中で、私のいる研究室に関して言えば、男子学生は技術寄りの視点が強いなと感じますね。もちろん技術も大事ですが、本当にその教材が高校生のためになるのか、などの中身の設計も大切だと思います。そういう部分の議論を活性化させることで、研究室の活動に貢献していきたいです。うちの研究室は人数が多く先生もお忙しいのですが、今回修士論文の執筆にあたり、ものすごく力になっていただいて、嬉しかったです。

この大学は、何かひとつ、つきつめたいものがある人にとっては、充実した環境だと思います。修士の1年目は授業もハードだし課題やレポートも多いので、研究するために、健康は本当に大事だと思います。あと、女子が少ない分、つながりは深いですね。同期の仲間は就職するので、先日一緒に卒業旅行をしてきました。

将来の希望は、私は博士課程に進学するので、教育学の分野で研究者として仕事をしたいと考えています。女性の研究者が少ない分野なので、この分野に進みたい人たちの助けもしたいと思います。今、母校のメンター制度のお手伝いをしていて、進学のアドバイスをしています。

経営工学専攻

前村菜緒

私は東工大の経営システム工学科出身で大学院に進学しました。ビジネスに興味を持っていたのと、理系で経営を学べることから、経営工学を学びたいと思っていたので、大学受験の時に、東工大への進学を希望しました。父親が東工大出身だったため、入学した時は喜ばれましたね。父の時代は女子が1%だったそうです。

経営工学では、数学とパソコンを駆使した理系的な授業はもちろん、文系の経営学の授業もありますし、他学科の授業も取れるので、さまざまなことを学べます。私は早めに単位を取って飛び級しました。東工大で学んで良かったと思うのは、やはり論理的思考力が鍛えられる点だと思います。卒業論文の段階でもしっかりと仮説検証をやっているので、かなり力がついていると思います。そもそも経済学や会計学は、数学が必須の分野なので、理系の教科が得意な人には挑戦してもらいたいですね。

でも正直に言うとなんか力を入れていたのは、入学してゼロから立ち上げたストリートダンスのサークルです。旅が好きなので



“自分の人生だからこそ、
自分が選んだということが
心の支えになる”

Nao Maemura

休みの期間に旅行に行くために、家庭教師のバイトもかなりがんばりました。さすがに院生になると研究に集中していますが、まわりもみんな学部時代はサークルなどの活動を一生懸命やっていました。

大学のいいところは、自分で自分の時間の使い方を決められる点だと思います。つまり自分のマネジメントをすることが大切

になるのです。東工大という場で、女子であることは、すごく得だと感じます。みんなジェントルマンだし、先生はやさしくて丁寧に教えてください。少数派だからこそ、女子同士のつながりは強いですね。私は飛び級したこともあって、5世代の人とつながっているハブのような存在です。なんとなく気質が合うし、仲間同士のバランスもいいですね。ベトナムからの留学生の実家にみんなで遊びに行ったこともあります。

仕事については、世界で通用する人になりたいと思っています。ですから、若いうちに海外に行ける会社を希望しています。将来的には日本の女性の働くイメージを変えたいと考えています。女性で優秀な人はたくさんいるのに、今の社会では就労条件などで女性が妥協しなければならないという現実があると思います。海外も視野に入れて、家族も仕事も大切にできる女性の働き方があるはずですよ。

進学希望者へのアドバイスとしては、今、自分がやりたいと思ったことに突き進んで欲しいです。今の世の中、未来は本当に予測できないと思います。自分の人生だからこそ、自分が選んだということが心の支えになる。リスクを恐れず挑戦して欲しいですね。

価値システム専攻

堀井里紗

学部時代は、北九州市立大学の経済学部経済学科で行動経済学を学びました。特に、流言の流布問題に関心がありました。今在籍している木嶋恭一研究室では、郊外型ショッピングモールでのテナント料設定、テナントへの敷地分譲、テナントが提供するサービスの最適化を研究しています。実は、私が「大のショッピング好き」ということがこの研究テーマを選んだ理由です。旅行に行くとショッピングモール等に立ち寄ります。そこで、モールビジネスの欠点は、カスタマーのニーズに合わせたテナント出店を行うことができていないことに気づき、ショッピングモールを再現できるシミュレーションモデルを構築することが、モールビジネス支援に繋がるのではないかと考えました。

価値システム専攻は、分野横断・文理融合の実践の研究教育を行うことを目的に創設された専攻です。社会の問題は、複雑に絡み合っているため、ある特定の分野のみに特化した人間では対処できないと思います。そこで、これからの社会においては、



“欲張りに生き、その分努力します”

Risa Horii

分野横断的な考え方ができる人間がさらに必要になると考えて、進学を決めました。

大岡山のキャンパスの中では、本館前のデッキがお気に入りです。図書館で本を借りて、デッキで紅茶を飲みながら、よくボーっとしていました。研究環境が整っているところも魅力です。女子学生として特に不便だと感じたことはありません。先生も

研究室の友達もみんな紳士ですよ。「自分が疑問に思うことを探求したらいい」と先生に言って頂いたことを大切にしています。研究分野が同じ3研究室での合同合宿ゼミで研究発表をし、夜遅くまで楽しく飲み会をしたことは一生の思い出です。また、価値システム専攻は研究室の枠を越え交流する機会が多ですね。

将来の自分のイメージとしては、社会という大きな視点、コミュニティという中くらいの視点、個人という小さな視点をもって、何が必要なのかを見極めることのできる人間になりたいです。具体的には、多角的な視点を備えた有能なコンサルタントやファシリテータをめざしています。もちろん、仕事だけでなくプライベートも充実した人生を送りたいと思っています。欲張りに生き、その分努力します。

生きている中で、疑問に思うことに限りがないように、研究には終わりがありません。しかしながら、論文を提出したり、学会発表したりするためには、少しずつ区切りを付けることが必要です。研究でも人生でも就活でも同じだと思いますが、大きな目標を固めて、それを実現するために小さな目標を設定し、それをクリアしていくことが必要だと思います。

社会学専攻

御園理紗

学部は、筑波大学の生命環境学群の地球学類で地理学を専攻していました。気象学とか地質学の分野も学ぶことができました。もともと社会学に興味があったのと、地理学は調査が中心なのですが、計画もやりたいと考えていたので、飛び級で卒業できると決まった時に、東工大の社会学の説明会に参加しました。

その時に心に響いたのが、今在籍している研究室の齋藤先生がおっしゃった「鳥取砂丘は人工的に維持されているものだが、それが本当に良いことなのか、人間にとってだけでなく環境や自然にとってどうなのかを考えなければいけない」というお話でした。それで景観の根本的な意義まで考えていく研究をしてみたいと思い、進学を決意しました。

東工大はいろんな先生がいるのがいいなと思いました。他の先生の授業もすごく楽しいです。筑波では男子3対女子2くらいの割合でしたが、東工大は男子が圧倒的に多いですね。でも東工大生は基本的にシャイな感じがします。実際に入ってみて、年



“学生時代は、勉強だけやってはだめだと思います”

Risa Misono

齢の幅や留学生の多さにも驚きました。自分も中国人留学生のチューターになったのですが、彼女が来日する時に研究室の先輩方も一緒に成田に迎えに行ってください、ついでに観光もして、楽しかったですね。

今、就職活動中ですが、金融や不動産系の総合職をめざしています。社会の発展に大きく貢献できるの仕事にかかわりたいと

思っています。街づくりなどの開発や投資にかかわる仕事や、信託などの資産運用の分野でも理系の知識を活かして、能力を発揮できる場が多くあるようです。今までいろいろな分野を学んできたので、それを活用できる仕事をしたいと思っています。

私自身は、修士1年の夏にインターンの経験をして、自分の適性や志望を見極めることができたのが良かったと思います。就職活動中に東工大の人とたくさん会って情報交換できるのも楽しいですよ。なんか見たことあるな、と思った人が同じ授業に出ていたりします。

学生時代は勉強だけやってはだめだと思います。私は、学部時代は水泳部で体育専門の人たちと一緒に本気で練習していましたし、フルマラソンに挑戦したりしていました。アルバイトも大切な出会いの場です。バイト先の先輩が東工大の物理の方で、その方が大学院の進学を決めていたことも、私が東工大を選択した理由のひとつなのです。そのバイトは、東京駅のケーキ屋さんだったんですが…。お互いにまさかそんなところに理系の女子がいるとは思っていませんでした。東工大は女子のつながり、かなり強いですよ。

大学院の生活24ヶ月

長いようで短い大学院修士課程。専門性を高める授業を受けながら、着実に自分の研究を進めていきます。
新しい生活や仲間たちに慣れた頃には、将来のビジョンに対して、具体的な計画を立てていきたいですね。先輩たちの体験談を聞くことも貴重な情報源です。選択の幅を広げるためにも、海外留学やインターンシップの経験も、きっと役に立つでしょう。

Message from our experienced

福田恵美子さん

防衛大学校 情報工学科 講師
博士(理学) / 2005年博士課程修了
日本女子大学理学部数物科学科卒業

私は現在、防衛大学校において、自衛官になる大学生の教育を本務としています。身分としては、国家公務員になります。

東工大に在学中は、現在の社会工学専攻の武藤滋夫教授の研究室(当時、価値システム専攻)に在籍して、「協力ゲームとその解の拡張および提携形成問題」というテーマで研究をしていました。このテーマは先生が薦めてくださいました。「これをやれ」というのではなく、「君はこんな論文に興味があるんじゃないの?」と文献などを紹介してくださって、自然と興味をもって取り組みました。アカハラなどがある昨今、思えば指導教授に恵まれていましたね。

東工大で学んで良かったことは、人脈が築けたことだと思います。入学したことも、修士と博士課程を合わせて5年間続けられたことも、就職できたことも、全てまわりの方々の助けがあったからだと思います。博士課程の時にお世話になった女性の外国人研究者の方から「人さえ殺さなければ、なんだってやり直せる」と言われたことは、仕事で行詰まった時などに思い出して励みにしています。

現在の仕事は、公募があったので応募したというのが正直なところです。取り組んでいる研究については、自分なりに淡々と進めているつもりです。でも、着任してすぐ、年の近い女子学生に「先生はプレゼン発表しているときが一番いきいきしている」と言われたことがあって、あまり自覚はしていませんが、好きで続けているのかな、と思います。

仕事をする中では、防衛大学校では学生さんが制服着用ということもあり、身だしなみにもある程度、気を使っていますね。大学院のときは古着やジーンズなどラフな服装をしていましたが、就職してワードローブが激変しました。息抜きは、学生時代からの友達と服を買いに行ったり食事に行ったりすることです。大学院時代も就職してからも、学校内だけ、職場内だけに友人をもとめず、違う環境にいる友人との関係を絶やさないと大事だと思います。

修士1年

入学式●

オリエンテーション●新歓コンパでは、先輩や留学生と仲良くなる。

前期授業スタート●

授業回数のバランスをとるために、東工大独自のカレンダーがあるので、要注意!

履修登録●

ウェブエントリーなので簡単です。冬に始まる就職活動に備えて、計画的に。

研究室ゼミスタート●

大学院のゼミは主体性が大切。

4

April

留学希望の人は、この時期にしっかり情報収集しておこう。

5

May

●公務員試験はこの時期なので、先輩たちの動向は要観察!
●ゴールデンウィークでちょっと一息ついて、本格的な研究生生活がスタート。

6

June

●TOEICのスコアアップをめざす人はこの時期が穴場。
●夏休みにインターンシップを受けたい人は情報収集を。

7

July

夏休みは海外のサマースクールや短期留学のチャンス!

前期試験●試験やレポートは7月下旬~8月上旬。先生によって違います。
●夏休みスタート

8

August

●ゼミの合宿、学会、インターンシップなど。
●研究室で工大祭の準備を始めるころも。

9

September

●夏休み終了

10

October

●後期授業スタート
●履修登録
●工大祭
●就職活動のリサーチスタートです。

11

November

●先輩の修士論文の研究を観察して、自分の研究テーマもそろそろ探そう。
●大学院生が就職活動で一番聞かれること、「どんな研究をしていますか?」

そろそろ将来設計の時期

12

December

●OB、OG訪問や企業研究会には積極的に参加しよう。
●エントリーシートは、人に見てもらおうと新しい発見があります。

1

January

●研究室は、先輩方が論文の仕上げで緊迫。その背中をしっかりと見ておこう。就職活動も本格的に動き出します。

後期試験●
修士論文締め切り●
論文の締め切りと発表の時期は専攻によって異なります。
修士論文発表会●
嵐の後の静けさ、来年は自分達が主役です。

2

February

3

March

●お別れ会、学位授与式、さて、残り1年。
●この時期、学会発表も集中します。1年目、まずはポスター発表デビュー。



Message from our experienced

豊田光世 さん

兵庫県立大学 環境人間学部 講師
博士(学術) / 2009年博士課程修了
明治大学農学部農学科卒業

現在、環境教育や環境哲学の分野で研究と教育活動を行っています。もともと明治大学農学部でバイオテクノロジーを学んでいたのですが、人と生き物の間の倫理に関心を持ち、ノーステキサス大学で環境倫理の研究をしました。また、倫理的課題を多くの人と考えるためのアプローチとして、ハワイ大学で子どもの哲学を学びました。ハワイの国際会議で桑子敏雄先生と出会い、研究内容に強い共感を覚えたため、東工大で佐渡島をフィールドにした合意形成の研究に従事することとなりました。東工大は科学技術専門の大学だという先入観があったため、社会理工学研究科を知り、驚きました。

佐渡では、自然再生事業を地域のエンパワーメントにつなげていくための研究を進めてきました。実践を通して理論構築を行うことが桑子研究室の特徴と言えるでしょう。技術確立を重視する東工大の校風があったからこそ、思想と実践を組み合わせながら、地域社会に貢献する学術成果の追究が可能だったと思います。

価値システムは多領域分野の専攻です。博士論文を執筆する過程では、様々な分野の先生から、思いがけない問いを投げかけられることがあります。この経験は、社会に開かれた研究を行う上で、とても大切なことだったと、今、改めて感じています。なぜなら、多様な視点をもつ人びとが存在する社会の中で、自分の考えを他者と共有していくためには、異なる考えを受け止めて、自らの解釈をきちんと説明することが必要だからです。

現在勤務している兵庫県立大学環境人間学部にも、さまざまな分野の研究者がいます。環境関連の研究や教育では、課題を多角的に捉えていく力が必要となるため、異なる分野の教員との協働をはかりながら、幅広い視点からの教育を目指しています。

在学中のことで思い出すのは、社会理工のある西9号館で度々コンサートが開かれていて、研究の合間に聞きに行き、気分転換を図ったことです。こうした機会を積極的に活用して、感性豊かな大学院生活を送っていただきたいと思います。



1年間のスケジュール、勉強も遊びもめいっぱいがんばろう。

修士2年

●新学期
授業スタート
履修登録 ●今年が修論の研究テーマに関連した科目を取ることもできます。

4
April

●公務員試験

5
May

●博士課程への進学を希望する人は、この時期には研究の方針や進路の希望を固めよう。

6
June

東工大は博士の学生に対する経済支援制度が充実しています。

7
July

●最後の夏休みスタート
●進路も決まって、修士2年の夏に短期留学する人も多いです。

●学会発表、修論の準備、旅行などなど

8
August



修士論文執筆 ●ここからねばると研究のおもしろさが見えてくる。ゼミでのディスカッションからさまざまなヒントが。

10
October

●工大祭
1年生の将来設計の相談にのってあげよう。

11
November

●修士論文は、執筆とプレゼンテーションの二本立て。大変だけど、だからこそ鍛えられる。先生や仲間のアドバイスを研究に活かそう！

12
December

研究に集中する毎日は、だんだん楽しくなってきます。

1
January

修士論文締め切り ●論文の締め切りと発表の時期は専攻によって異なります。

2
February

修士論文発表 ●終わった！厳しい質問やコメントへの対応と修正を丁寧に、最後の仕上げは悔いのないようにやろう。

3
March

●仲間との卒業旅行、実家への帰省、新生活の準備、追い出しコンパ。
学位授与式 ●24ヶ月終了です。自分に、「2年間楽しんで、がんばったね」と言えるように。

修論の内容を学会発表する人もいます。

卒業後、東工大で学んだ 「世界で通用する技術」を生かして 是非海外で働いてみてください

坂本佳陽さん

博士(工学) / 2008年博士課程修了
お茶ノ水女子大学文教育学部人間社会学科心理学コース卒業
Scientist, Computational Social Cognition,
Institute of High Performance Computing,
Singapore Agency, Science, Technology, and Research (A*STAR).

私が勤務しているA*STARというのはシンガポール政府の研究機関のことで、和訳すると「シンガポール科学技術研究庁」などといったものになると思います。その傘下のコンピュータサイエンスの研究所で研究員として働いています。所属するチームは、理系一色であった研究所にとって、心理学をテーマとする初めての文理融合型チームです。具体的には、人間の社会心理学的側面を計算科学的手法で研究し、得られた知見をサービスやアプリケーションへの応用につなげる、といったことがミッションです。

シンガポールに来たのは全くの偶然で、大学院卒業間近に行ったアメリカの人工知能の学会で、現在の上司（アメリカのノースウェスタン大学の心理学の教授です）と知り合いになったのがきっかけです。そのとき彼が、「シンガポールで客員教授として学際型プロジェクトを始めるので、心理学とシミュレーションの両方がわかる人間を探している」と話しているのを小耳に挟み、思わず「それって私のことじゃない?」と思ったわけです。

帰国後、早速彼に「私こんな研究をしているんですけど・・・」と論文を送ったところ、「非常に面白く、かつ我々に関連した研究だ。是非シンガポールに来たまえ!」と。もともと海外で研究をしてみたいな、と思っていたので、迷うことなく就職を決めました。

我々のチームは、文理融合型の学際チームということになっているのですが、メンバーの専門はもとより、国籍も非常に多岐にわたっています。シンガポール人はもとよりアメリカ人、イギリス人、イラン人、フィンランド人、インド人、ドイツ人、トルコ人・・・そして国籍の国と教育を受けた国が違う人も多く、文化的にも非常に多彩です。

国際的学際チームというと、とても華や

かな印象を与えると思うのですが、実際は苦労の方が大きかったかもしれません。うちのチームは単独で研究を行ってはいけないというルールがあるので、何か新しい研究をしたかったら、誰かを巻き込まなければいけないのです。ところがみんな専門が違うので、研究において何が大切か、何が面白いかという点が微妙に違うため、誰かを説得して自分の研究に巻き込む、というのが研究の第一関門になります。私も何枚企画書を書き、没にされたか知れません。内容がしっかりしていると評価される企画書も、賛同者がいなければ容赦なく没になります。

ただ、ごく最近になって、以前より自分が成長している点があることに気がつきました。対人マネジメント能力です。例えば、私の上にはイギリス人1人アメリカ人2人の合計3人の上司がいるのですが、この3人に私の書いた企画書を納得させるには、一人にはワクワクする感覚を伝えるのが重要で、もう一人には綿密な作業計画をもって説明するのが重要だったり、それぞれ異なるやり方が必要になってきます。一緒に研究を行う同僚も、数式で納得する人もいれば日常的な具体例で納得する人もいたり、こちらの意見を納得させるのに異なるアプローチが必要です。こういうことを繰り返していくうちに、私の中で研究対象に対する理解が深くなったり、俯瞰できるようになったりしてきましたし、日常生活においても、以前とくらべてより論理的になったのを感じます。

私が所属していた研究室の中川先生は、いつも東工大の認知科学研究室の売りは、学際性であるとおっしゃっていました。このことは実際日本の外に出て、あらためて実感として感じたことでもあります。私がシンガポールの今の職場で職を得たのも、「心理実験とシミュレーションの両方がわかる」点が評価されたからです。今の職場



“日本の外にいて
初めて見えてくる日本
というものがあります。”

Kayo Sakamoto

では多様なバックグラウンドを持つ同僚に囲まれているが、数理モデルを専門とする同僚と、心理実験を専門とする同僚とで、意見が全く食い違うことがあるんですが、私、どっちの言い分もわかるんですね。東工大では当たり前だったことが、意外と外ではそうではないんだなあと感じています。

これははっきり断言しますが、東工大で皆さんが学ぶであろう技術や知識は世界で通用するものです。だからこそ、卒業後、東工大で学んだ「世界で通用する技術」を生かして是非海外で働いてみてください。確かに日本の高度に整備された社会制度（国民皆保険を当たり前だと思っはいいけません）の外に飛び出すリスクは大きく、私とて数年後路頭に迷っているかもしれません。それでも、日本の外にいて初めて見えてくる日本というものがあります。そして帰国後それを教育や、産業や、ひょっとしたら政治や立法の発展に、皆さんなりのやり方で生かして欲しいのです。そしてそれは、今の日本を変える力になると思うんですね。東工大は、皆さんがその気になれば、そんな壮大な計画の基盤になるものを、確実に与えてくれます。

社会理工学研究科は、 グローバル化の時代に向けて、 世界で活躍できる人材育成をめざしています。

好むと好まざるに関わらず、
我々は世界の人たちと一緒に仕事をする時代に突入しています。
国際関係が財の奪い合いであった時代は終わり、
限られた資源と環境の中で、ルールをつくり、
価値を共有し、イノベーションを起こすことを恐れず、
より豊かな未来を世界の人と協働してつくっていくのです。
英語が苦手だから無理、なんて思う必要は全くありません。
世界共通のテクノロジーという言葉をしっかり持っていれば、
ちゃんと世界と仕事ができるようになります。
それが、東京工業大学・大学院社会理工学研究科の強みなのです。

社会理工学研究科の 国際提携プロジェクト

現在、MOU (交流協定) 締結先が、どんどん増えています。2012年3月2日にはパリ工科大学 (TelecomParisTech)、3月19日にはハワイ大学マノア校との交流が本格的にスタートします。さらに、海外からのゲストもたくさん来訪しています。ゲストとの交流の中で、自分の留学先のイメージや計画を立てていくことができます。

研究科独自の企画として、フィンランドのユヴァスキュラ大学で行われるサマースクールへの派遣があります。また短期留学のME310 Design Innovation

Program (主にフランス、主にパリ) は、スタンフォード大学 (アメリカ) と Ecole des Ponts Paris Tech (ENPC、フランス) の共同運営によるもので、協賛企業の要望に応じた新しいプロダクトデザインを国際学生チームの共同研究によって提案します。長期留学のプログラムとして、ENPC とのダブル・ディグリープログラムも、社会理工学研究科に在籍する学生は、所定の要件を修了すれば、最短3年間の学習によって、双方の大学からそれぞれ修士号を得ることができます。

北欧との連携プロジェクト (2009年度 - 2013年度 5ヵ年計画)

社会理工学研究科では、2009年からスタートした「北欧との連携プロジェクト」を通じ、本学と北欧との連携を深める活動を中心になって進めています。北欧諸国は「質の高い生活の実現」という価値観を共有しつつ、教育、福祉、環境保護などの分野に強みをもつことによって人間中心の社会を形成してきました。この「生活の質の向上」という観点から北欧には参考とすべき点が多くあると考えられます。

北欧から、心豊かな地域、安心して暮らせる老後、そして人間を中心とした技術の活かし方をどのようにして実現するかを学ぶとともに、本学の誇る工学技術を紹介することにより WIN-WIN 関係を構築したいと考えています。

本学はフィンランド、デンマーク、スウェーデン、ノルウェーの4カ国にある8大学と全学協定を締結しています。さらに、我々はフィンランドのユヴァスキュラ大学の情報理工学部およびアゴラ・ヒューマンテクノロジーセンターと部局間協定を締結し、積極的な学術交流を図っています。

2009年にはフィンランドウィーク、2010年はデンマークウィーク、2011年はスウェーデンウィークとして、毎年北欧の一カ国をテーマにイベントを開催し、学内の教職員学生だけでなく地域の方々にも参加していただいています。

フィンランドのイベントで
つくった紙細工の作品



協力 Tampere Art Museum
Moominvalley
©Moomin Characters TM

さまざまな留学制度

東京工業大学では、協定校への留学(派遣交換留学)や夏季休暇を利用した短期留学、単位交換ができる長期留学など様々な留学機会を提供しています。留学の機関やスタイルはいろいろあるので、自分にあった方法を見つけてください。また、海外でのインターンシップも実施されています。各プログラムへの応募情報は随時更新されていますので、詳細は国際部のウェブサイト(海外留学)をご覧ください。

<http://www.ipو.itech.ac.jp/exchange/send.html>

超短期留学

1ヶ月以内

サマースクールや語学講座など、大学の休暇期間を利用して海外での生活と学習を経験できます。また、体験学習型のフォーラムや学生の交流を目的としたセミナーなど、さまざまなプログラムがあります。

短期留学

1年以内

海外での学生生活を経験し、コミュニケーション力をつけることのできる短期留学は、長期留学や将来海外での研究活動や仕事を希望している人にとって、その準備としても活用できます。

長期留学

1年以上

本格的に語学を習得し研究活動を行える長期留学には、ダブル・ディグリーを取得できる清華大学やENPCとのプログラムや財団が支援するプログラムなどがあります。自分の将来のビジョンを持ち、計画を立ててください。

インターンシップ

将来、グローバルな視野を持ち、世界を舞台に仕事をしてみたいと考えている人は、インターンシップを経験すると良いでしょう。各国の諸機関や企業が人材育成のためのプログラムを募集しています。奨学金など資金援助もあります。

派遣交換留学生

語学力の向上だけでなく、海外の大学で自分の専攻分野の講義や研究指導を受けることを目的とした学生を対象に、授業料等不徴収協定を締結している派遣交換留学のプログラムがあります。1学期以上1年未満という期間が限定されています。

東京工業大学—清華大学 大学院合同プログラム

日本と中国における理工系大学のトップ校として、東工大と中国の清華大学は、1986年から学術交流協定を結んでいます。現在、互いに大学院生を派遣し、一定期間、相手国で教育・研究活動を受けさせることで、ダブル・ディグリー(双方学位)を取得できます。

清華大学からの留学生メッセージ

董媛

人間行動システム専攻
清華大学大学院 外国語学部 日本語専攻

清華大では、主に日本語と中国語の対照の研究をやってきました。日本のようなサークルはありませんが、学生ネットワーク管理委員会、清華大学学友会、ボランティア活動などに取り組みました。実は、清華大学に入学を決めたときに、初めて清華大・東工大合同プログラムを知り、3年間に2つの学位(修士)をもらえることがわかり、応募してみたのです。

現在、中川研究室で言語統計解析に基づく帰納的推論・比喩生成・比喩理解の計算モデルの適用というテーマを研究しています。いろいろな分野の知識を融合して、結果を出すところが、研究のおもしろいところ。研究室の活動も授業も大変なので、両立するよう心がけています。

東工大に来ていろいろな人に出会うことができ、よかったです。先日、旅行で奈良・京都に行きましたが、3日間という短い時間でもみんなすごく仲よくなれ



Tou En

て、非常にいい思い出をつくることができました。

留学生活の中では、「Priority」が大事だと思います。いいことであれ、悪いことであれ、日々いろいろなことが起こります。これらの出来事が自分に悪影響を及ぼしてしまうかどうかは自分次第だと思います。自分のやるべきことをリストアップして、何を優先させるかという選択によって、結果がだいぶ異なってきます。「最初に考えたことをいつまでも忘れず、自分の中に持ち続けることが大事」なんだと思います。このことは、友人から言われ、大切にしている言葉です。

将来は就職して自立したいと思います。ずっと両親に支えられてきましたので、これからは自分の力で両親に何かを貢献したいと考えています。ときどき失敗もあるかもしれませんが、あきらめずにやり抜くことが大事だと思います。

Access



大岡山キャンパス

東京急行大井町線・目黒線（大岡山駅下車徒歩1分）

平成 24 年 3 月発行

[発行者]
国立大学法人東京工業大学 大学院社会理工学研究科

[お問合せ先]
国立大学法人東京工業大学
大岡山第二事務区 社会理工等グループ
住所：〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
電話：03-5734-2104
E-mail：syariko@jim.titech.ac.jp
URL：http://www.dst.titech.ac.jp/index.html

[制作協力]
株式会社リーワード

